岡山県哲西町道の駅と地域コミュニティ施設の複合施設

現地訪問日: 2012年2月27日

報告者:光多長温

1. 哲西町道の駅鯉が窪

- ① 国道 182 号線沿いに立地。
- ② 開設日:1996年8月15日と道の 駅としては比較早い
- ③ 施設内容
 - ・駐車場 普通車:33台、大型車:6台、身障者用:2台
 - ・トイレ
 - ・レストラン「山野彩館」
 - 特產品販売所
 - ・他に、公園、体験コーナー「昔 ばなしの里」
- ④ 待ちが施設建設で、三セクが経営。 三セクの出資構成(資本金30百万円)は、行政51%、農協10%、s 商工会、森林組合、地元信金等9.5%、一般株主(186名)30%となっている。
- ⑤ 感想:比較的早期の道の駅で、道 の駅としての施設もやや狭く、地 元産品販売所や、飲食所、パンエ 房等を備えているもののそれほ どのにぎわいとはなっていない 感じがした。収支も余り芳しくな いとの印象を持った。しかし、施 設の規模が古く、また狭いために、 これを全面的に手直しすること







はかなりの費用もかかり、難しいとも思われた。この道の駅を活性化させるために も、次項のきらめき広場が大きな意味を持っていると感じた。なお、既存の商店が 消滅しつつあり、住民の会ものり弁のためにも党が施設が必要とのことであった。

2. 複合施設きらめき広場

① 概要

・2005年に旧哲西町は1市4町の 合併により、新見市の1地区とな ったが、それに先立つ2001年に、 「行政・保健・医療・福祉・教育・ 文化一体型の施設をオープンした ・旧哲西町で「町に何が必要か」 とのアンケートを行ったところ、 診療所という答えが最も多かった ことから、町の診療所1を道の駅及 び、旧哲西町役場の隣地に建設を 行った2。通常は町立診療所となる ケースが多いが、医療を軸にした 街づくり、政治情勢に左右されな い形での診療所を目指して施設は 町が建設して、運営を医療法人が 行うやり方を採用した。また、公

営診療所となると公務員の給与体系となり、コスト高となることも問題と考えた。このため、町が1.500万円出資して医療法人を設立し、賃貸(有償)方式で医療法人が経営することとした。

・施設内容しては、内科診療所・ 歯科診療所、図書館³・文化ホー ル・生涯学習センター、役場を回





廊式に配置した。敷地面積 23.000 ㎡建築面積 6.020 ㎡。

・多様な機能が備わっていることにより、地域拠点としての位置づけが明確となっ

1 プライマリーケアに徹する診療所でベッドはなし。セカンダリーケアは新見市内にあり、これとのパイプを太く持つこととしている。

² 地域医療で有名な佐藤医師を沖ノ島に訪ね、懇請したところ、最終的に応諾していただいて、佐藤医師の指導の下に診療所の開設を行った。5年の約束で来ていただいたが、もう10年になるとのこと。住民の方々が地域医療の先生が根付いていただくように努力していることも大きい。集落単位で医療のレクチュアを行う等。

なお、佐藤医師一人で行っていたが、自治医大の方が来て、二人体制となった(1人は岡山医大に移った)。50人の地域医療研修医が来たが、その中鈴木先生がおられて、その後当地で診療に当たっていただいている。診療日は月曜日から金曜日で土日は電話で対応。歯科は週5日。なお、歯科は別の医療法人としている。医療法人の収支はトントン程度。

3 直営にすると、夕方の貸し出しが難しいため、NPO 法人を指定管理者とすることとした。

ている。特に、道の出来という交通商業機能と、行政機能、診療機能、教育機能、 集会機能が一体化したことにより、相乗効果が発揮できることとなった。更に、市 営バス、コミュニティバス等の発着場所ともなっており、交通結節点としても機能 も具備している。特に、診療所は内科と歯科を具備していることから大きな効果を 発揮している。在宅診療も行っており、特に、寝たきり高齢者に歯科診療は住民に 喜ばれている。

② 運営状況

- ・きらめき広場の利用者は次の通り(2010年度)となっており、住民に受け入れられていることが窺われる。生涯学習センター: 5.667 人、文化ホール: 3.590 人、図書館: 15.666 人、保健福祉センター: 6.734 人、内科診療所 10.232 人、歯科診療所: 3.541 人、ATM 利用者 16.435 人。合計 61.965 人
- ・これら施設の運営のために、NPO 法人きらめき広場が 2004 年に設立された。そして、前町長の深井氏が事務局長となり、住民と一体となって、市民活動を行っている。一つが、地域情報誌「きらり」の発行である(末尾 PDF 参照)。次が、福祉の優勝サービスであり、高齢者の足となっている。更に、保育士や幼稚園教諭経験者のボランティアによる子育てサービス、市立哲西図書館の指定管理者受託、市民団体との協働活動によるきらめき健康福祉まつりを行っている。

「小さな拠点」きらめき広場・哲西の取り組み

(特) NPOきらめき広場 事務局担当理事 深井 正

1、はじめに

人口減少・高齢化の進行という社会変化の中で、基礎的な生活サービスを効果的に提供できる「小さな拠点」として注目を浴びている「きらめき広場・哲西」は、岡山県新見市(人口 33,995 人 世帯数 13,156 世帯《H23.7.31 現在》 面積 793 Km²) の西南部に位置する旧哲西町地域のほぼ中央に平成13年オープンした"行政・保健・医療・福祉・教育・文化一体型の複合施設である。

旧哲西町は、平成17年3月、1市4町の合併により新見市の1地区になったが、それに先立つ平成9年、以降10年間の総合整備計画策定のため、中学生以上の住民を対象に「今後、町にどんな施設が必要か?」というアンケート調査を実施した。

結果は、1位 診療所(66.2%)、2位 新しい役場庁舎(34%)、3位 温水プール(24.5%)、4位 保健福祉センター(20.2%)、5位 図書館(16.0%)、6位 文化ホール(7.9%)、その他(美術館・博物館・音楽室・研修室・和室・創作活動室・調理実習室・ゲームセンターなど(23.5%)であった。

「今後、何に力を入れるべきか?」の問いには、「保健医療の充実」が 2位以下を圧倒的に引き離してトップの回答であった。

これを受けて、町は、住民が望む施設をつくろうと考え、温水プールとゲームセンターは実現できなかったが、アンケート回答にあったほとんどの施設を一つ屋根の下に集約することとし、哲西町最後の大型ハード事業と位置付け、完成後は施策の軸を「ハード」から「ソフト(保健医療を中心としたまちづくり)」へ移すと定めて複合施設建設事業に着手。

基本設計から実施設計まで1年半にわたって住民も参加した60数回に及ぶ設計会議を重ね、住民ニーズと使い勝手を反映させるとともに、①公共施設を集中させて利便性を向上、②町民の健やかで生き生きとした生活を支える場所づくり、③町民同士・町外の人々との交流の場づくり。④にぎわいの場(街)をつくりその街角に店開きする役場、⑤ユニバーサルデザインと省エネルギーをコンセプトに平成13年10月に町のシンボルとして落成をむかえた。

完成時、住民は「まるで我が家」が落成したような喜びに包まれた。

2、施設の概要と機能

施設は、まちづくりの理念である「保健医療を中心にすえたまちづく

り」にそって、内科診療所・歯科診療所を国道入口に配置、次いで保険 福祉センター・図書館を正面玄関の両脇に配置、さらに文化ホール・生 涯学習センター、役場 (現市役所支局) の順に、回廊式に一つの大きな 屋根の下に配置した「小さな街」を思わせる構造で、敷地面積23,000 ㎡、 建築面積 6,020 mの複合施設として完成した。

隣には道の駅「鯉が窪」が接しており、近くに消防分署・警察官駐在 所も引っ越してきた。

一周できる回廊で結んだことにより、各セクション間を簡単かつ自由 に行き来することが可能となり、常時、自然体で連携が図れるようにな った。(大きなメリット)

住民にとって施設を結んでいる回廊は、さながら街路といった雰囲気。 多様な機能が備わっていることにより多彩な住民活動の拠点として活 用。さまざまな目的をもった人々が集まり交流が生まれ本当の意味での 賑わいが創出された。

市営バス、ふれあいバスなどの発着場所としての交通結節点としての 機能も発揮。

隣接の道の駅との一体化による食事や買い物、くつろぎ機能も併せ持 った。

特に、診療所は内科と歯科を整備、内科診療所はヘリカルCTをはじ め、地方病院の外来並みの装備を有し、町全額出資の医療法人 (現在社 会医療法人) による経営ながら、現在内科医師 2 名、24 時間 365 日何で も診るという地域医療を実践し地域包括ケアの充実に取り組んでいる。

また、図書館は、蔵書数 78,000 冊と地方小都市並みの規模を有し、現 在指定管理者NPOきらめき広場による年中無休の運営がなされ、市内 外からの多くの利用でにぎわいが創出されてきた。

このような小さな拠点としての機能は、

- ・施設づくりで培われた住民の参加意識の向上
- ・施設内の各セクションに物理的壁のない状態で繋がったことから セクション間の感覚的障壁も取り払われ、連携・連帯の一体感が 醸成。
- ・生活利便性の向上
- ・にぎわいの創出と併せて利用者間の交流・地域連帯感の向上 などの効果を地域に及ぼし、合併後5年を経過しても一定の利用率を保 っている。

※きらめき広場の利用状況(平成22年度利用者数)

生涯学習センター 5,667人(延537回)

文化ホール 3,590人(56回)

図書館

15,666人(355日開館)

6,734人(延327回) 保健福祉センター

10,232人 内科診療所

3,541人 歯科診療所

16,435人 ATM(JA)利用

61,865人 合計

利用指数(年間利用者数/地域人口) 20.1(参考 合併直 前19.2)

3、市町村合併とNPO活動の始動

1市4町の合併協議に際し、広い市域になれば保健・医療・福祉を中 心としたまちづくりや行政サービスの低下が心配されるとともに、一方 で、これからの時代は行政だけに頼ったまちづくりには限界があるとい うことも肌で感じるところとなり、今後のサービスが低下を市民の力で 補っていこうという発想で平成16年10月、まちづくりを目的とした 「NPOきらめき広場(翌17年2月NPO法人化)が住民有志で設立 された。

当初25名で発足した法人であったが、いまは正会員63名、協力会 員336名に成長し、「新しい公共」の担い手として、活動範囲も拡大し ている。

小さな拠点「きらめき広場・哲西」の一室を市から間借りし事務所を 設け、常勤・非常勤7名のスタッフで、施設機能を活かしたNPO活動 に取り組んでいる。

平成23年度の活動計画は、別表のとおりで実に多彩な計画をもって いるが、小さなNPOが全て自前でやろうとしても不可能。

地域では、多様な市民団体や組織が動いており、その活動を手助けし たりサポートしたり協働したりしてそれらの活動を活性化させ、結果と してトータルでのまちづくりを企図しているのである。NPOきらめき 広場は、まさに縁の下の力持ちの役割に徹することとしている。

実際、NPOきらめき広場が直接手掛けているものは数件に過ぎない。 主なものは、

一つが地域情報誌「きらりら」の発行である。まず、情報を共有しな ければ何事も進まないと考え毎月 1,500 部を発行して地域内外に配布し、 現在75号に達している。地域内の細かな情報が届くと好評である。

二つ目が、福祉有償運送サービス。高齢化の進行とともに移動手段の ない移動困難者が急増している現実に対応するため平成 18 年から活動 中。(車両2台、現登録者94人、運転者17人)、小さな拠点を交通結節 点としている民間バス(市中心部を結ぶ2往復)、市営バス(地域内3路 線各4往復)、市福祉バス(市営バスの入らない地区週1回)を補完する 形で移動困難者の個別輸送サービスに取り組んでいる。

三つ目が、保育士や幼稚園教諭経験者のボランティアによる子育てサロンの運営がある。月3回の子育で中の親子の交流や学習会の開催などをつづけ参加者の評価を受けた。この成果がきっかけとなり昨年度後半から、市の事業として採用され、現在は市の受託事業として週3回の実施となっている。

次に、市立哲西図書館の指定管理受託がある。

合併時、午前10時から午後7時であった開館時間を閉館午後5時の中央図書館に合わせるとなると2時間短くなり、その2時間が1日貸出数の25%を占めており致命的なサービス低下となることが判明。そのサービス低下を回避するため指定管理制度により運営委託を受け公設民営となったものである。NPOきらめき広場が受託してからは、木曜日の定休日を廃止し年中無休のサービスを展開。月2回の乳幼児一時預かりサービスも実施し乳幼児を持つ母親の気軽な来館を支援している。

図書館のレファレンスサービスに加え、「よろず相談室」を設けて市民 に対する諸相談に対応するとともに拠点施設の生涯学習センター部分の 市民利用支援を行っている。

次に、市民団体との協働活動では「きらめき健康福祉まつり」がある、 合併前は行政主導で住民の健康・福祉に関する意識の高揚と健康維持の ための学習や動機づけに毎年開催していたが合併後に中止された。

翌々年、市民から再開しようとの話が持ち上がり市民団体が連携し自力でやることに。合併前の行政主導から市民主導へと大きく成長して復活。現在では関係 14 団体(行政も 1 構成員)が参加して「新見市哲西地域包括ケア推進会議」(N P O きらめき広場主宰)を発足させて、健康づくりや食育推進、緊急時子育て支援や病後児一時預り活動など地域包括ケア推進活動に取り組むとともに 2 級ヘルパー養成講座の開設を計画するまでになった。

また、会員 338 名 (NPO協力会員でもある)を擁する哲西地域安全会は、独立行政法人福祉医療機構の助成で整備した軽車両で、会員が毎日地域内を巡回し、交通安全や防犯の広報活動を行うとともに高齢者の見守り訪問を実施中。燃料経費はもちろん会費で自前負担。まさに「地域力」復活中。

4、小さな拠点と小さな自治

NPOきらめき広場の活動拠点が小さな拠点「きらめき広場・哲西」であると同様、文化活動や趣味のサークルを含め市民活動団体の大半がここを本拠地もしくは拠点として活動している。

施設完成後10年経過し、地域では小さな拠点の存在がすでに当たり

前のこととなっているが、最近になって再び、小さな拠点の一例として 注目されるところとなり、改めて「きらめき広場・哲西」が果たしてき た役割の大きさとその内包する力を再認識している。

現在、施設には合併による市役所支所化により行政エリアに空きスペースが生じており、将来、郵便局やJA等も集まり諸機能がさらに集約されると市民の生活利便性がより向上すると期待されている。

しかし一方で、この「小さな拠点」は中心集落に立地しており周辺の 基礎集落、とりわけ辺縁部の集落のあり方が大きな課題となってくる。

一極集中の進んだ現在の日本国土ミクロ版になってはトータルとしての地域づくりは失敗と考え、NPOきらめき広場は平成21・22年度継続で集落実態調査活動を展開中である。

過疎高齢化が進行する集落の現状と集落と拠点とを結ぶ移動手段のあり方などを将来の定住意向を含めた悉皆調査に取り組んでいる。

地域の現状と将来の姿を居住者自身で確かめ、運命共同体としての基 礎集落の姿をさぐり市民自身が地域の仲間と共に手作りで地域の未来を 拓く「市民の市民による市民のためのまちづくり」に発展させる計画だ。

行政によって提供されてきた公共サービスが市町村合併や自治体財政の縮小に伴い否応なしに低下し、その低下を少しでも自らで補おうと出発したNPO活動であったが、画一的で硬直化した行政機能の現状や行政サービスだけでは充足できない身近な生活関連ニーズに気付くとともに、行政サービスには多くの隙間が存在する実態も明らかにしてきた。

地域には地域らしいニーズがあり、それに対応するサービスも地域に ふさわしいより即応的・効果的・効率的な取り組みの必要性も実感した。

自分たちの地域は自分たちで守っていかなければ何も始まらない。

私たちは、これを「小さな自治」の構築と位置付け、さまざまな地域 組織が思いを共有しつつある。

市民活動などの中間支援団体としての役割も果たしながら、できるだけ多くの市民や市民組織が立ち上がり共に協働しながらまちづくりを進める姿を求めている。

行政との関係では、対等な関係を保つことを基本姿勢として、協働に 名を借りた行政の下請けは絶対にやらないという気構えで、行政も巻き 込み自ら主体的に協働した地域づくりをすすめていきたい。

これからも「小さな拠点」をよりどころとして「小さな自治」への挑戦を続ける覚悟である。



◎平成23年度 NPOきらめき広場事業計画書

定款の事業名	事業内容	実施予定	実施予定場所
情報発信	ホームページ等による市民活動に関する情報交換と情報発信	随時	法人事務所
	地域情報誌「きらりら」発行	毎月	法人事務所
地域づくりセミナー	市民·行政·企業等参加の地域づくり推進体制や協働システム の構築、ネットワーク化に向けたセミナーやワークショップ実施	随時	きらめき広場・哲西
	市民活動を行う団体の連絡、助言並びに支援	通年	新見市内
	財団法人田辺育英会事務局受託	通年	岡山県内
市民活動団体支援	移動ネットおかやま事務局受託	通年	岡山県内
	建物等共済推進協議会哲西支部事務受託	通年	新見市内
	市民活動団体との協働事業	通年	新見市内
	各種団体共催で、講演会・研修会の実施	年2回	きらめき広場・哲西
	地域づくりフォーラム	年2回	きらめき広場・哲西
	盆踊り保存夏祭り(実行委員会と協働)	8月	きらめき広場・哲西
人づくりまちづくり事業	地域集落実態調査活動	通年	新見市哲西地域
	文化財保全·調査活動	通年	新見市哲西地域
	地域団体協働活動事業	通年	新見市内
	人材育成活動·活動の場確保事業	随時	岡山県内外
	地域包括ケア推進事業	年12回	新見市内
保健福祉推進事業	健康福祉まつりへの協賛	7月	きらめき広場・哲西
	2級ヘルパー等養成講座	通年	新見市内
	子育て広場	週3回月2回	きらめき広場・哲西
了等了去视声 类	図書館利用者幼児一時預かり事業	随時	きらめき広場・哲西
子育て支援事業	子育て緊急応援隊活動	随時	きらめき広場・哲西
	病後児一時預かり活動	随時	きらめき広場・哲西
福祉有償運送移送活動	福祉有償運送サービス	随時	新見市内
自然環境保全ボランティア育成事業	鯉が窪湿原保全活動	通年	新見市内
環境保全事業	地域清掃活動・ごみゼロ作戦(各団体協働)	通年	新見市内
	空家調査と活用活動	通年	新見市内
都市農村交流調査·研究事業	エコツーリズム研究事業	通年	新見市内
CT活用活動	インターネット・メールなどICT活用研究	月2回	きらめき広場・哲西
ラストワンマイル活用事業	ラストワンマイル活用研究会の開催	通年	きらめき広場・哲西
地域安全活動	地域安全確保パトロール活動	月23回	新見市哲西地域
公共施設の管理	新見市立哲西図書館指定管理受託事業	通年	きらめき広場・哲西

きらめき広場 哲西 総事業費のまとめ

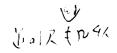
(単位:千円)

		庁舎	診療所	生涯学習センター	保健福祉センター	その他	合計
	設計委託	16,658	6,380	24,550	7,012	473	55,073
THE .	工事費	560,644	222,924	818,668	235,997	55,738	1,893,971
事業費	備品購入費	16,647	167	26,897	4,573	804	215,753
費	事務費					10,792	10,792
	合計	593,949	396,136	870,115	247,582	67,807	2,175,589
	町債 (一般単独事業債)	348,200					348,200
	(県貸付金)	30,000					30,000
	(過疎対策事業債)		375,100	127,400			502,500
	(地域総合整備事業債)			637,200	184,200		821,400
	(臨時経済対策事業債)			90,100	61,400		151,500
財源	日本新生緊急基盤整備事業債)					6,000	6,000
AIR	起債小計	378,200	375,100	854,700	245,600	6,000	1,859,600
	国庫補助金						(
	その他特定財源					6,038	6,038
	一般財源	215,749	21,036	15,414	1,982	55,769	309,95
	合計	593,949	396,136	870,114	247,582	67,807	2,175,589

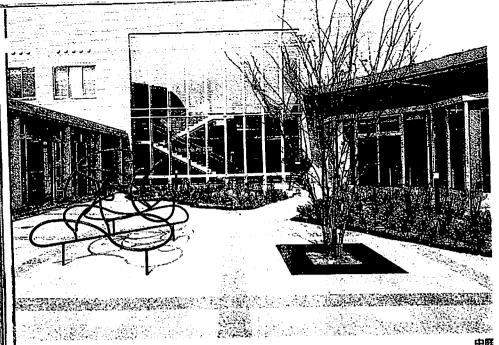
「きらめき広場・哲西」利用人数推移

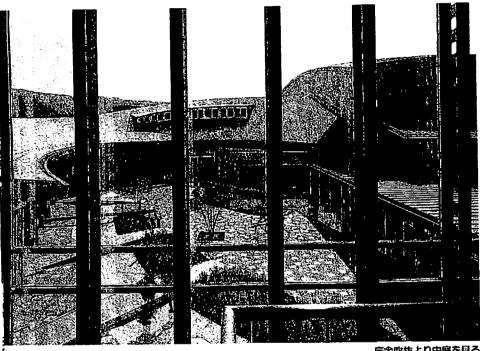
(特)NPOきらめき広場調べ

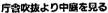
(14)111 - C 200 C 200 MAI						
	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
生涯学習センター(除くホール)	-	-	5,427	6,157	7,440	5,667 人
(生涯学習センター(除くホール)回数)	(672回)	(745回)	(428回)	(570回)	(649回)	(537回)
文化ホール	-	-	3,872	3,896	4,335	3,590 人
(文化ホール 使用回数)	(84回)	(79回)	(38回)	(65回)	(59回)	(56回)
図書館(貸出人数)	17,830	18,215	17,504	16,308	15,983	15,666 人
保健福祉センター	-	8,572	9,253	6,063	6,642	6,734 人
保健福祉センター(回数)	(373回)	(455回)	(382回)	(221回)	(249回)	(327回)
内科診療所	11,801	11,215	10,632	10,397	10,931	10,232 人
歯科診療所	3,766	3,634	3,584	3,259	3,306	3,541 人
JA矢神支所ATM	-	-	-	9,058	9,820	16,435 人
※図書・新聞雑誌等閲覧のみの	利用人	数合計	50,272	46,080	48,637	45,430 人
利用者、市民コーナー利用者、	(含むATM	/利用者)	-	(55,138)	(58,457)	(61,865) 人
新見市哲西支局来訪者について はカウントできていない。	哲西地域人[(ATM利用	コ(3080人)比 者を含む)	16.3 -	15.0 (17.9)	15.8 (19.0)	14.8 (20.1)



文化ホールの利用例	クリスマスコンサート(市内の音楽愛好者の発表の場)、民話の集い(日本一有数の語り部・故賀島飛佐の民話を伝承している学校や団体の発表の場)、敬老会、音楽会、講演会、研修会など
保健福祉センターの利用例	健康福祉まつり、料理教室や栄養改善活動、リハビリ教室、子育てサロン、集団検診、幼児クラブの定例会等々









「きらめき広場・哲西」への想い

深井正●哲西町長

岡山県北西部に位置する哲西町は、西の尾瀬とも呼ば れる国指定天然記念物「鯉が窪湿原」に代表される美し く豊かな自然の恵みを受けて、悠久の歴史を刻み、世代 を超えて文化を育み、今、いきいきとした人々・地域や グループが頑張っている町です。

昨年10月、構想着手から8年、町民参加で進めてき た21世紀の町づくりの拠点施設「きらめき広場・哲西」 のオープンを迎えることができました。

この施設は、庁舎・生涯学習センター・図書館・保健

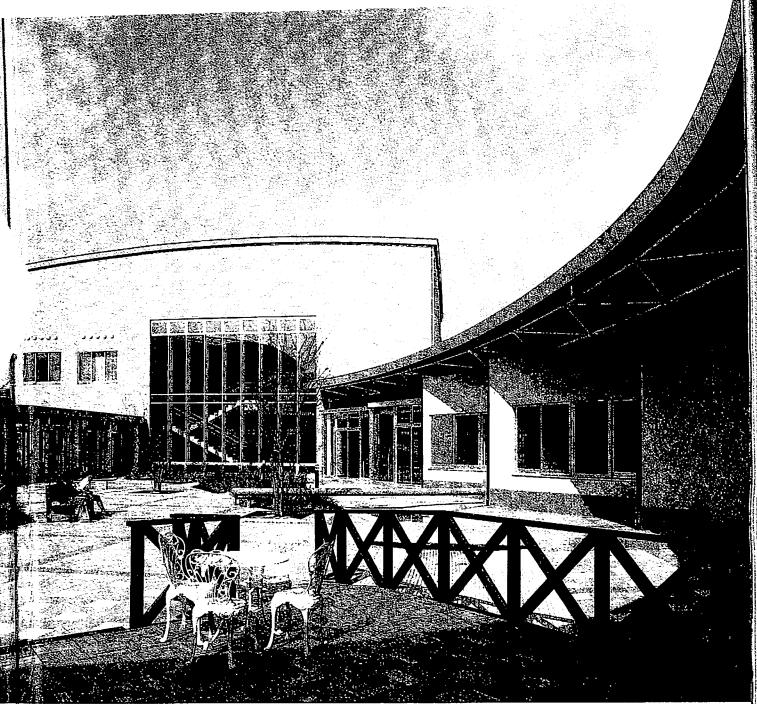
福祉センター・診療所(内科・歯科)を一つ屋根の下に 一体化すると共に災害時防災センター機能も有する全国 的にも珍しいと思われる複合施設です。

境目のない回廊で結ばれたこの施設全体が、オープン のバリアフリー構造で「出会いの場,憩いの場,賑わい の場」となり、特に庁舎部分は、その回廊の一隅に店開 きした格好の名実共に開かれた役場庁舎となっています。

また、屋外には、集会や各種イベントの開催ができる 多目的広場を配し、隣接する道の駅「鯉が窪」との一体 化を図ると共に,太陽光発電・地下熱利用の空調・風力 発電利用の街灯など、自然を活かした環境にやさしい施 設でもあります。

各種サービス機能の充実、健やかな心身を育む場・日 常の暮らしにおける憩いの場・交流の場・生きがいの得

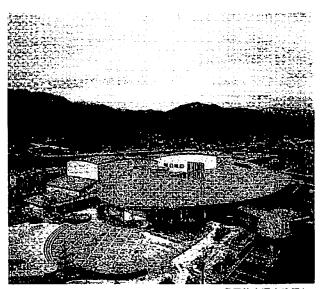
· 多八字 これの中心報学 類 地名在里西美国



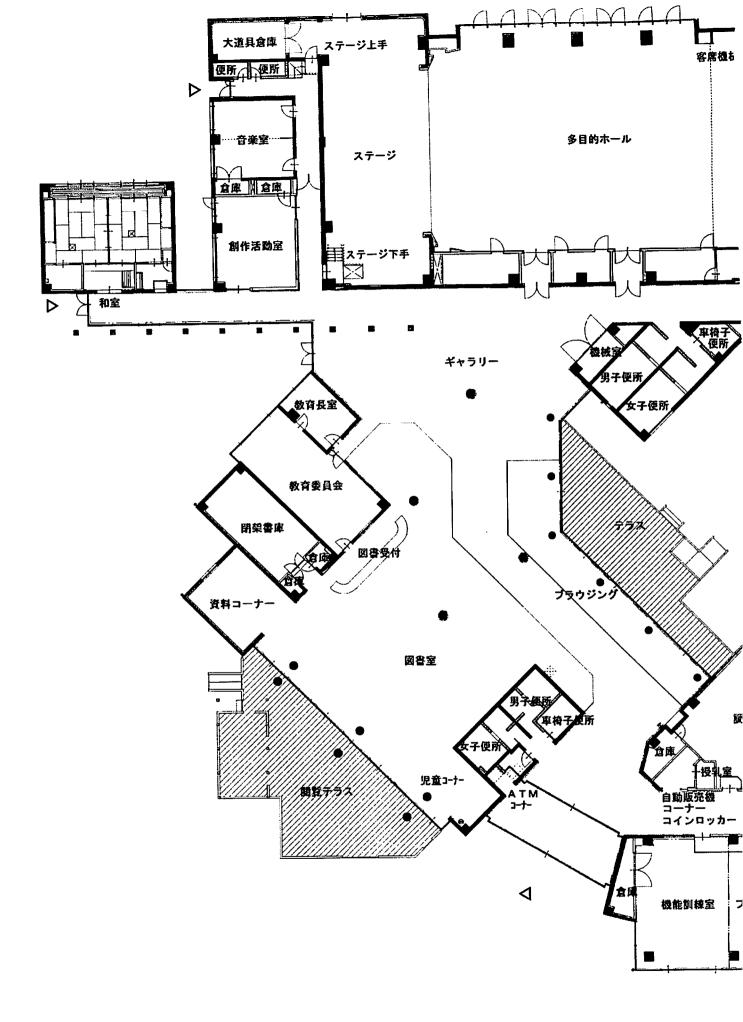
中庭

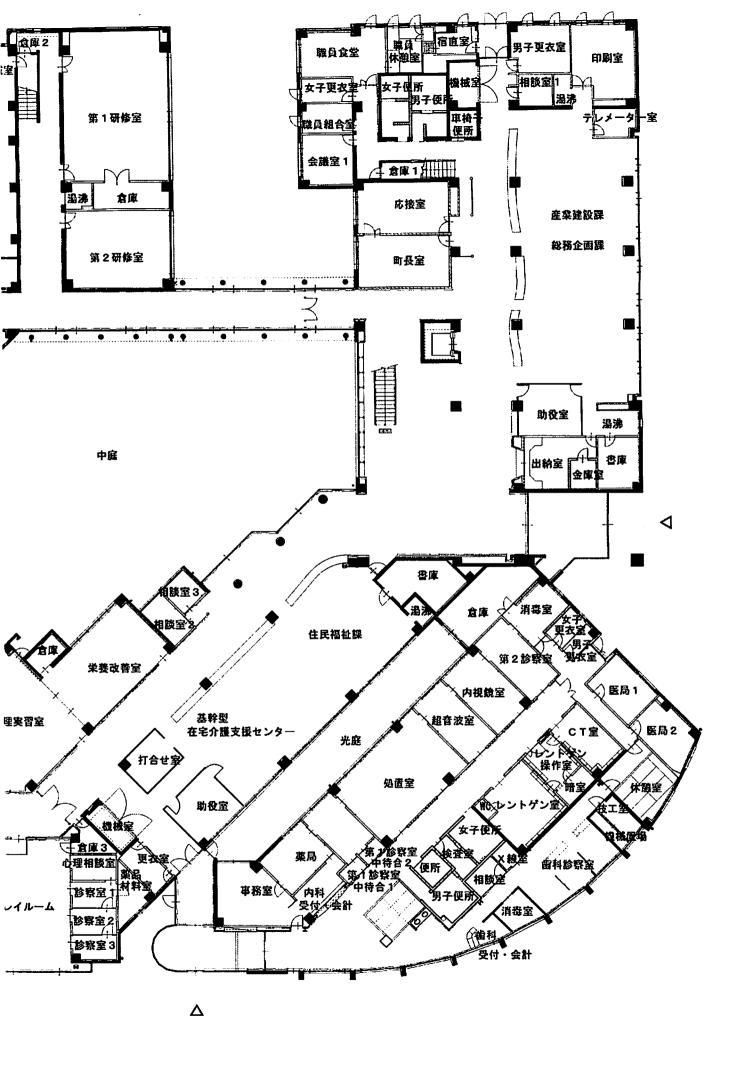
られる場・安心安全の場などの提供を通じて、人間性豊かなコミュニティーを形成し「魅力ある文化と福祉の町」の実現をめざす住民本位の施設、という町の想いが具現化できたことは、設計事務所や施工業者の尽力に負うところ大なるものがあり、新時代にふさわしい住民自治と地方分権の進展に即応し得る、大きな可能性を秘めた拠点施設として完成したと自負しています。

今後、この施設の有する文化・学習・保健・医療・福祉・行政など各般の機能を有機的に連携させ、あらゆる可能性を引き出しながら、きめこまかな住民サービスを展開し、共に支えあうコミュニティーづくりをすすめ、町民総参加による「人・もの・地域」が文字どおり「きらめき輝く」哲西町の実現にむけて着実な歩みを続けたいと決意を新たにしています。 (ふかい まさし)



多目的広場より望む・





きらめき広場哲西 1 階 平 面 図

SUZUKEN GROUP

Suzuken Medical

スズケンメディカル

監修:高久史曆 自治医科大学学長

編集協力:北村 聖 東京大学教授

Vol,14-No,1 2011 February

テーマ「C型肝炎」

CONTENTS

9	臨床医	のため	のクリニカルスタディ「C型肝炎」	1 de "
	[企画]	林紀夫	独立行政法人労働者健康福祉機構関西労災病院	病院長

ケーススタディ/ HCV1型高ウイルス量C型慢性肝炎1	⊳ 3
--	------------

疾患レビュー/ C型肝炎	4 ⊳ 6
--------------	-------

・診療テクニック/肝臓	(癌の画像診断	7 ⊳ 10
-------------	---------	--------

・ドラッグ コンサルテーション/	ペグインターフェロン・	
	リバビリン併用療法	11 ⊳12

- シリーズ地域医療・岡山県 社会医療法人哲西会哲西町診療所 13 ▷ 14
- ●C型肝炎とは 15



▼きらめき広場・哲西 診療所・歯科診療所・新見市役所の哲西 支局・保健福祉センター・生涯学習セン ター・図書館などを兼ね備える



岡山県新見市哲西地区(旧哲西町)。のどかな田園地帯の中に建つ、ひときわ大きな青い屋根の建物が「きらめき広場・哲西」だ。診療所・新見市役所の哲西支局・保健福祉センター・生涯学習センター・図書館などを一ヵ所に集約した「複合型施設」で、哲西地区の医療・保健・福祉・教育・文化の拠点としての役割を果たす。今回は、哲西町診療所の佐藤勝先生に、医療を通じた「包括型町づくり」についてお話を伺った。

町長からのアプローチ

佐藤先生が哲西町診療所に赴任したのは、2001年。自治医科大学を卒業後、島根県の隠岐病院や都万村(現:隠岐の島町)の診療所で地域医療に邁進していた佐藤先生が、なぜ岡山県の哲西町に赴任することになったのか。そこには、哲西町町長(当時)の深井正氏との出会いがあったという。

当時、哲西町では役場の建て替えに合わせ、町の予算の中から何の事業を優先すべきか、住民向けのアンケート調査が行われていた。「病気の治療だけではなく、予防・検査・早期発見も行える診療所がほしい」「元気で働き、長生きがしたい」。無医町であった哲西町の住民が強く希望したのが、地域を支える診療所の設立であった。そんな住民の強い要望に応えるべく、深井町長は「健康」を政策の中心におき、役場と一体型の診療所を整備することに決めた。

深井町長の「診療所」に傾ける情熱は強かった。「医師が仕事場を選ぶ権利があると同時に、迎える側にも医

師を選ぶ権利がある」 との信念のもと、自ら 地域医療の勉強を続け、 医師を探し回った。 そんな中「要望に応え る医療を実践している 後輩がいるよ」と紹介 を受けたのが、佐藤勝 先生である。

深井町長の診療所構想には、「医師を決めて、 その医師の働きやすい



▲前町長の深井正氏 現在、新見市政策顧問を務める

診療所をつくろう」との思いがあっ た。しかし一方で、佐藤先生は当時、 故郷である島根県の地域医療に没頭 している最中で、県外に出る気持ち はなかったという。そこで、建築士と 同行し「もしも先生が働くとしたら、 どのような診療所が理想だろうか」 と相談する形で、隠岐にいる佐藤先 生のもとを何度も訪ねたという。 「県を出るときは、それなりのリスク もあった」と佐藤先生。しかし、「健 康 | を政策の中心におき、「医療を中 心とした町づくりをしたい」という 町長と、保健・医療・福祉だけでは なく、役場・教育機関までも一体化 する構想に惹かれ、最終的に、故郷を 離れて哲西に赴任する決意を固めた。

生涯寄り添う医療

哲西町診療所では、設立の段階か ら当時診療所としては非常に珍しい 「ヘリカルCT」を導入した。「住民の 健康のためには、病気の早期発見が 必要だ」とする深井町長の信念に基 づいたものだ。「住民の安心感は、何 物にも換え難い。道路を1本造るの に比べると、高い買い物ではない」と、 CTの将来性について熱心に医学専 門誌を読み込んだという。「重装備診 療所と揶揄されることもあるが、「哲 西の患者さんは聴診器だけで十分』 とするのはおかしい。哲西の患者さ んも同じ医療保険に入っており、 同じ医療を受ける権利がある」と佐 藤先生も続ける。実際に、ヘリカル CTが導入されたと噂を聞いた患者 さんが、町外から哲西町診療所にか けつけて来ることもあったそうだ。

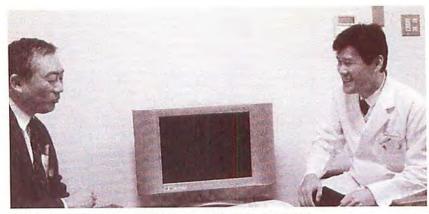
「癌の患者さんを見つけたとき、 実際どの時点で癌が始まったのか、 その前兆が今までなかったのかを 遡って考える。地域の診療所では長く1人の人のすべてを診ていくので、 「あのとき自分がもう少し早く見つ けてあげることができていたのなら」 という苦い思いを抱えたまま、最期 まで患者さんにつきあい看取ること になることもある」という。地域医療 は、「生涯寄り添う医療」であるからだ。 だからこそ、ほんの少しの症状や血 液データなどの変化にもこまめに対 応し、検査などをすすめることなど 早期発見がより重要となるのだろう。

島根県での診療所時代、佐藤先生は老人ホームの設立などを通じ、保健・医療・福祉の連携によって町の教育・文化・産業構造の変化を促し、新たな町づくりへと結びつけた経験をもつ。哲西町診療所においても、佐藤先生の目指す「医療を通じた町づくり」は、着実に実を結びつつあるようだ。

「ありがとう」が行き交う地域

現在、佐藤先生は岡山大学で地域 医療人材育成講座の教授も務め、 地域医療の後継者を育成する教育者 としての一面ももつ。「小さい頃に もっていた地域医療や診療所の正直 なイメージは「患者さんや住民の病 気の発見が遅れるのではないか」と いうもの。だから、自治医科大学卒業 後も正直、最初はへき地診療所には 行きたくなかった。自分の技術の遅 れも心配だった」と佐藤先生。しかし、 実際に地域に出てみると、「ありがと う」の感謝の気持ちがより身近に感 じられ、人間らしさが行き交う、そん な地域医療に魅了されたと振り返る。

かつて半身麻痺により在宅での介護となった高齢の患者さんがおり、その患者さんをデイサービスに連れ出してお風呂に入れ、気持ちよくて「ニコッ」とされた。すると、麻痺のない左手で他の患者さんの背中を流し、「ありがとう」と感謝され「ニコッニコッ」とされたのを目のあたりにしたという。その後、この患者さんはディサービスに行きたくてたまらない



▲哲西町診療所の佐藤勝先生(右)と本誌編集協力の北村聖先生(左)

ほど、デイサービスの日を楽しみにされていた。

普段、介護が必要な患者さんは、いたわられることがあっても、「ありがとう」と感謝される機会がない。健康を失ったときに、そのことに初めて気付くのだという。そんな「地域医療」の思いを伝えるべく、哲西町診療所では毎年、研修医や医学部の学生実習を積極的に受け入れている。

「人には、お互いの関係があり、役割があり、生きがいがある。患者さんの生活に寄り添い、共に考えて感じる医療。高度医療機関では教えないことを、地域医療を通して学んでほしい。1年でも診療所に行った経験が、その後の医療に対する姿勢を変えることもある」と佐藤先生は期待を込める。鈴木忠広先生(現:理事長で所長)は、2006年1月に1ヵ月間哲西町診療所の佐藤先生のもとで初期臨床研修の地域研修を行い、地域医療に魅かれ2010年4月に赴任し、現在2人で診療をしている。

医療を大事にする風土

佐藤先生の教育は、地域の子どもたちにまで及ぶ。地域の「健康福祉まつり」では、子どもたちを集め、診療所探検を行っている。例えば、ピーマンや急須のCT画像をみて、それが何の画像かを推測する。また、壺の中に入れたキャラクターを内視鏡で覗いて、実際に鉗子で触って動かしてみる。医療機器を使用して、子どもたちに医療に親しんでもらう体験学習だ。「診療所でこんなこともできるのだという記憶を子どもたちに植え付け、

教育することで、田舎だけどいい医療ができる町だと伝えたい」と佐藤 先生は静かに語る。

佐藤先生自身も実は、田んぼに囲まれて育った農家の息子である。だからこそ、地域における医療の必要性や、医師確保の難しさに共感する部分も多いのだろう。子どもたちがいずれ医師や看護師になって町に戻り、将来の地域医療を支えるかもしれない。「哲西の中から、将来の哲西を支える人材を育てていくことで、医師探しの必要がない地域にしていきたい。二度と無医町とならないためにも」という強い思いが込められている。

哲西では、行政や住民が医療を大事にする風土が根付いている。医師やその家族が住みやすい環境を気遣い、「先生、お疲れさま。大変だね」と声をかける。「医師は24時間診て当然」という住民がいる町よりも、「ありがとう」という感謝が行き交う町は、医師にとっても居心地がよいものだ。

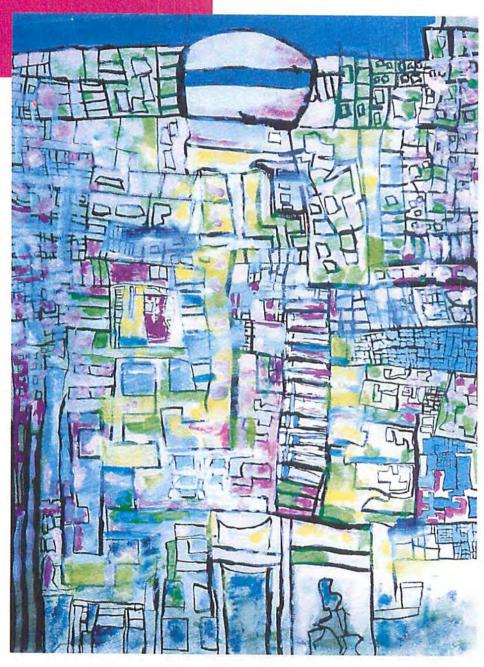
行政や住民が一体となって医療を守り、医療がまた住民を守る。哲西における「包括型医療」は、哲西の住民までも含めた、まさに「包括型町づくり」なのであろう。「新しい地域医療の形をつくっていきたい」とする佐藤先生の言葉をかみしめながら、緑に囲まれた哲西地区を後にした。

* * *

佐藤先生の長女は、一昨年(2009年)自治医科大学へ進学した。哲西で育ったことを誇りに思い、父の後ろ姿を追いながら、地域医療への第一歩を歩み始めたようだ。



Vol.70 No.10 2011 Oct.



延命医療のあり方終末期における

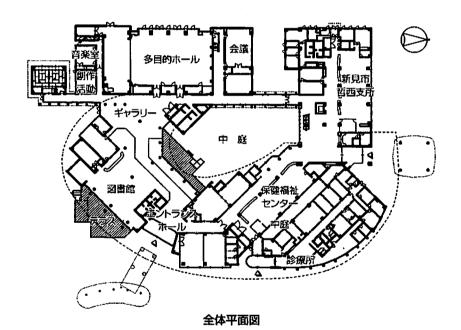
きらめき広場・哲西 哲西町診療所/哲西町歯科診療所

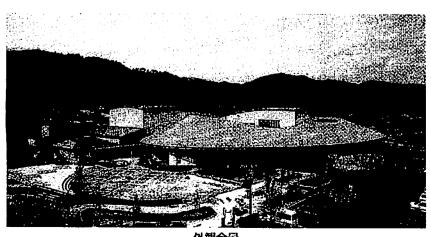
小野設計 堀田 荏惟-

広島県・島根県・鳥取県と岡山県の4県境が集まる岡山県の北西端部,新見市旧哲西町,地域人口約3000人(新見市人口約3万3000人)。高齢化率約37%、町の過半が高原と山林で占められ、町の中東部には「西の尾瀬」と呼ばれ、国の天然記念物に指定されている「鯉ヶ窪湿原(鯉ヶ窪湿生植物群落)」があり、時期折々に貴重な動植物を楽し

むことができる緑豊かな山間の地 に、哲西町診療所・哲西町歯科診療 所は 2001 年 11 月に開設された。

哲西町診療所・哲西町歯科診療所は、複合施設「きらめき広場・哲西」の一角にある。この「きらめき広場・哲西」は、旧哲西町役場(現新見市哲西支局)、診療所、生涯学習センター、文化ホール、図書館、保健福祉センターをひとつ屋根の下





外観全景

に配置した複合施設である.

この施設は当時、過疎と合併、歴 史あるコミュニティーをどのように 存続させていくかという、現在でも 地方集落がかかえる問題を、哲西町 全町民で議論しあったうえにできあ がった。

本施設については、建設の構想・ 設計の過程における町の熱い想い抜 きに本質を語ることができないの で、以下にその経緯を紹介したい.

▲ 住民討議の下に作られた ■ コンセプト

哲西町旧庁舎の老朽化に伴う建替が構想の発端であった。1997年、当時の首長であった深井正町長が提唱された、「町のために最も必要なものは何か」という命題の下、高齢化・過疎・若者の流出・生活圏としての利便性といった問題について様々な議論が始まった。

その議論の過程においては、中学 生以上の全町民に対して上記の命題 の下にアンケート調査も実施され た. ちなみにアンケート結果は1位 診療所、以下新役場、温水プール、 保健福祉センター、図書館であっ た。中にはコンピニやゲームセン ターといった意見もあり、その意見 のどういった要素が魅力なのかが真 剣に議論された。中でも図書館にお いては、「立ち読みのできるコンビ 二図書館」というキーワードで設計 を進める旨のコンセンサスを得るた めに大変な道のりを要した. そのア ンケートにおける「今後、何に力を 入れるべきか」という問いかけにお いては、「保健医療の充実」がダン トツトップであった(この時、町は 無医状態であった).

診療所の設計においては、この土 地で医療をしていただく医師を求め て奔走されていた当時の首長に同行 し、島根県隠岐島へ佐藤勝医師を訪 ね、平面計画の打合せをさせていた







診療所待合



CT 室

だいたことも思い出深い.

これらの意見を踏まえて施設建設 の理念を「まちづくりは、住民の活力が基本、その活力は、心と身体の 健康が基本」とし、以下のコンセプトがまとめられた。

1)公共施設を集中させて利便性の 向上を企図し、町のシンボルとして 整備する。

2)町民の健やかで生き生きとした生活を支える場所とする。

3)町民同士・町外の人々との交流の場とする。

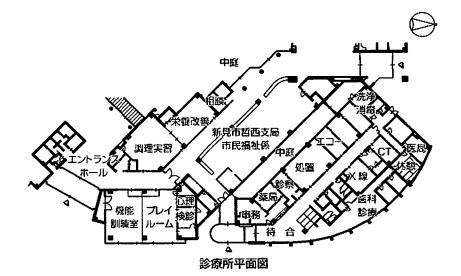
4) にぎわいの場所(街) をつくって、その街角に役場を店開きする.

5)ユニバーサルデザインと省エネ ルギー

以降,2年9か月に及ぶ住民を巻き込んだ60数回の設計協議を重ね,2000年5月に最終的な町民総合センター実施設計をとりまとめ,同年7月着工,工事工期15か月を経て2001年9月に竣工,落成を迎えた.

きらめき広場・哲西の 特徴

こうしてできた「きらめき広場・ 哲西」は、以下の特徴を備えている。



1)「保健医療を中心としたまちづくり」の理念に沿って、利用者の利便性を重視して診療所および歯科診療所を主要幹線の国道沿いに配置、次いで保健福祉センター・図書館を正面玄関両側に配置し、以下文化ホール、生涯学習センター、役場の願に配置されている。

2)各機能を1フロアに配置し、大きな円を形作る大屋根で全ての施設 覆い、1つの施設として各施設をつなぐことで、各部門を簡単かつ自由に行き来ができ、常時各部門が自然体で連携されている.

3) 保健・医療・福祉・教育・文

化・行政といった様々な機能が備 わっていることにより、様々な活動 が発生し、住民生活の拠点として活 用されている。

4) 市営バス・福祉バスなどの発着 場所としての交通結節機能を有して いる。

5) 隣接する道の駅との連携による。町内外の方々の食事や買い物。 くつろぎの場所となっている。

「きらめき広場・哲西」は、様々な目的を持った人が集まることで交流が生まれ、本当の意味での賑わいを創出する施設として利用されている。

病院 70 卷 10 号 2011 年 10 月

、 診療所の特徴と設計 コンセプト

内科診療所・歯科診療所 部分の 設計に当たっては、次の2点をコン セプトとして進めた。

1) 町民が安心して健康に暮らせるまちづくりを支える施設

2)保健・福祉活動との連携を図り、町民に身近で親しまれる施設

配置計画・施設全体の平面構成計画においては、先に述べたとおり利用者の利便性を第一に考え、施設全体の正面に配置した。また、基幹機能の1つである保健福祉センターと隣接して計画し、高齢者の町におけ

る保健医療の連携が少しでもとりや すくなるように配慮した.

平面計画では、比較的自然光を嫌う内科診療・検査部門を中庭側に設け、歯科診療所を外壁側に配置して、曲面の外壁を効果的に活用した平面計画とすることで、落ち着いた内科診療空間と明るく開放的な歯科

From Clinic

「きらめき広場・哲西」から広がる健康づくり・地域包括ケア

岡山大学大学院医幽菜学総合研究科地域医療人材育成構座教授/社会医療法人哲西会 哲西可診療所 佐藤 勝

「きらめき広場・哲西」は、「行政 サービスの中心に医療を」という住 民の要望を実現して建設された全国 的にも全く新しいタイプの複合施設 である。これにより1年2か月続い た無医町が解消された。

町内唯一の医療機関として、総合 医がいつでも相談にのれる医療を提 供(医師2人で24時間体制). 無床 診療所であるがCTや内視鏡等の高 度医療機器を整備し、適切な診断、 早期発見に努めている(早期がんを 50例以上発見). 在宅医療にも力を 入れ、特別養護老人ホーム嘱託医や 学校医、産業医も担っている.

■教育・文化・産業まで含んだ地域 包括ケア

当施設は、役場、診療所、歯科診療所、保健福祉センター、生涯学習センター、図書館、文化ホールを備え、住民や職員が行き来しやすい円のような構造である、診療所と役場や図書館等が同居することは全国的にも稀であるが、医療を中心として行政・保健・福祉・教育・文とと回りでしたのとのを様々な形で実感している。連携相手が近くにいて信頼が変われ、緊急時はもちろん些細なことで理解し、医師も行政の仕組みを理解して互いに協力ができている。

住民の総意である「地域包括ケア」が最重要施策として実践されるにあたり、医師も適時的確に提言することができる。ここでの地域包括ケアは、保健・医療・福祉だけでなく教育・文化・産業まで含むものである。

例えば、医師も保健啓発活動、健 康福祉まつり(診療所探検隊など)。 健康教育、各地区健康講座や、ミニ デイサービス(ボランティアが中心 になって毎月開催、約300人の住民 が参加)にも参画し、老人の生きが いづくりにまでも関わっている。ま た、保健と教育文化産業が協働し、 保健師主催の母子クラブから町の特 産品製造販売グループが生まれた り、乳幼児健診会場でブックスター ト(本の読み聞かせ)事業や中学生と 赤ちゃんとのふれあい体験事業を 行ってきた、このように子どもから 高齢者まで全世代に対する地域包括 ケアが実践できている.

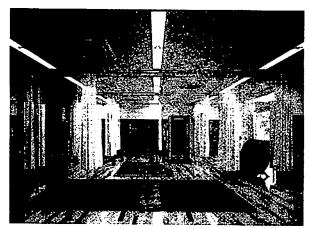
■研修医の感想

さらに研修医や医学生を積極的に 受け入れているが、実践型の研修と ともに、市長をはじめ地域・行政関 係者による講義も織り交ぜ、へき地 医療の素晴らしさ、やり甲斐、まち づくりに関わる面白さや楽しさを肌 で触れてもらっている、「イメージ していた診療所との違いに驚いた」 「将来診療所で働きたい」という研修の感想が大半を占める.

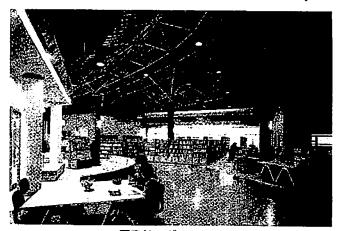
■地域医療づくり、まちづくりの 拠点

地域医療崩壊の解決は、医療者だけでなく住民も問題意識を持ち共に解決することが大切であるが、当地域では、住民と行政と医療者が手を取りあって皆で地域医療づくりを推し進めている。それが当施設の建物に明確に表れている。従来は連携が難しかった各分野が繋がりを持ち、そこに住民が自由に行き来することで、皆で地域医療を、そして、まちづくりの大きな拠点となった。

なおオープン後、哲西町は新見市等と合併したが、行政主導によるまちづくりから脱却すること、きめ細やかな住民サービスを維持することを目指し、住民が立ち上がり「NPO法人きらめき広場」を設立(まちづくり全般に関わる NPO法人は全国的にもめずらしい)、合併後も生活基盤である医療(健康)が施策の中心に置かれている。哲西会もそのような公益性が認められて、2009年に県内初の社会医療法人の認定を受け、これは診療所としては全国初の認定となった。



機能訓練室・プレイルーム



図書館・ギャラリー

診療空間を同時に実現している。ま た、待合室や通用口・職員更衣室・ 休憩室を兼用することで、両診療所 を必要十分でコンパクトにまとめる ことができた.

診察に訪れる高齢者に配慮し、待 合に設けた畳敷きの小上がりは、好 評を博しているとうかがっている。

内科診療所については、動線を重 視した事務室・薬局・受付・診察 室・処置室の繋がりを核として、有 効巾 2.2 m の廊下を中心にヘリカル CT をはじめとする地方病院外来並 みの臨床検査機能を備えられる諸室 を設定配置した.

歯科診療所については、ミニマム スペースの中で診察台を大きなガラ

スの開口面に向かって設置すること で空間に広がりを感じていただき。 少しでも診療時の不安感を和らげり ラックスできるよう配慮した.

建物落成その後

建物落成後は、同じ屋根の下にあ る診療所と保健福祉センターが連携 し、「住民の活力(心身の健康)は、 まちの最大の財産」の理念でつな がった以下の活動を開始し、住民の 健康づくりに対する意識向上に寄与 している.

1)健康保持,病気の早期発見,早 期治療. 治癒. 治癒後の通常生活復 帰の各ステージを連携してサポート

するシステム構築.

2)地域ケア会議(保健・医療・福 祉・行政スタッフの検討会)の常設

3)子どもの健康づくり事業(小学 校4・6年、中学校2年の生徒対 象・血液検査を基に健康づくり推 進)

2005年新見市との合併後、これ らの活動は常設の地域包括ケア推進 会議(市民主導)に発展して、行政を 巻き込んで健康づくりや食育推進、 子育てサロンなどを活動中である.

ほりた えいいち

株式会社 小野設計 設計部: 🖽 670-0875 姫路 市南八代町 5-20

称 社会医療法人 哲西会 哲西町診療所

医療法人 牧水会 哲西町歯科彩海所

所 在 地 岡山県新見市哲西町矢田 3604

病床数なし

診療科目 哲西町診療所:内科-小児科-放射線科:哲西町監科--統二、温:分文給別器

診療所:歯科

設計監理 株式会社 小野設計

工 株式会社大林組 中村建設株式会社 共同企業体

期 2000年7月~2001年9月 I

吸地面積 22,587.00 m² 建築面積 6,020,58 m²

延床面積 5.786.82 m²(内診設所部分 621.29 m²)

構造階数 鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造 名階連て

窩 さ 21.43 m

(空調設備)

方 式 油炊き吸収式冷温水発生機(庁舎・保健センター ホール・図書館・生涯学習センター)

対象に上トポンプ式エアコン(修復所)

遊 A発油ノフロハンガス

。(衛生設備)

韓 ※一水 上水道からの直接給水

非一张 下米超六直接放流

プロパジガス

屋内消火拴

(阿克設用)

最一句。パッケージ型BITで変数設備 客 量がBOKVA

発 電 機: 175kVA

(搬送設隘)

エレベータ 乗用・13人乗り 45m/min 2 停止(庁舎部分)

四、即

話、歌子交換機による内外通信システム